

「挑戦」の その先に

— 先輩から後輩へ
伝えるメッセージ —

6月15日、本川根中学校で講演会「先輩に学ぶ」が開催された。
講師を務めたのは、同校卒業生で大井川鐵道井川線運転士の羽倉知世さん。
自身の夢を叶え日々の業務に励む羽倉さんが、後輩たちに伝えたメッセージとは。

はぐら ともよ
羽倉 知世 さん

大井川鐵道井川線で2年間車掌として勤務し、昨年12月に念願の運転士免許を取得。上岸区。



やりがいのある仕事に奮闘中

私は短大を卒業後、都内の児童養護施設で働いていました。ある年、遠足で訪れた「鉄道博物館」で大きなSLや昔ながらの電車を目にして、子どもたちと一緒に夢中になってしまいました。それまで全く興味が無かったのに「鉄道の仕事をやってみよう」という思いが一気に強くなり、5年前、ちょうど井川線で従業員を募集していたのを知って「今しかない！」と転職しました。

最初は駅構内で働いていましたが、次第に運転士という仕事に憧れるようになり、運転士になるためには車掌の業務経験が必要であるため、2年間、車掌を務めながら電車の知識を学びました。また、運転士の免許を取得するためには、国家試験で合格しなければなりません。私の場合は、2回目の受験で合格できました。1回目の試験で不合格となった時はとてもつらくて、運転士になる夢を諦めかけていました。でも、周囲の方々の応援に支えられ、昨年12月に合格することができました。

日々の業務はとてもハードです。車掌業務では、全長50kmの車両を行ったり来たりで汗だくになります。お客さまを笑顔でおもてなしすることを心がけています。また、お客さまから「楽しかった」「ありがとう」と声を掛けられる瞬間にやりがいを感じます。運転士の業務では、まだまだ上司から指摘されること

後輩のみんなへ

先輩として皆さんに伝えたいのは、「挑戦すること」の大切さです。できるかできないか悩むより、いろんなことに挑戦し失敗することをおすすめします。些細なことでもまずは行動してみると、自分に向けている仕事やその仕事に就くために必要なことが見えてくるはずです。

私の中学時代を振り返ってみると、あまり目立たない、成績も中くらいな生徒でした。でも、保育士や花火師、考古学者など、とにかくたくさん夢を持っていて、職場見学をしたり話を聞いたりと、自分の夢のためにはよく行動しました。挑戦し続けると、時にはつらいことや挫折することもあります。それでも私は、周囲に支えられながら運転士という夢を叶えることができました。皆さんも自分らしいすてきな夢を見つけ、挑戦し、いつか叶えることを願っています。

Re: Message

自分の「なりたい」を探して

僕は、まだなりたい職業を見つけられていなくて、将来のことが少し心配です。でも、羽倉さんの話を聞いて、これからのいろんなことに挑戦していきながら、自分の夢を見つけようと思うようになりました。

本川根中3年
神谷 亮汰さん



町茶品評会

良質の川根茶が出そろう

7月7日、町茶品評会が町農林業センターで開催されました。

審査は、県茶業研究センターの鈴木康孝研究統括監を審査長とする審査員6人が、全国茶品評会審査基準に準じて厳正に行いました。審査順序と点数配分は外観20点、香気75点、水色30点、滋味75点の順序で計200点で競いました。

今年は、町内だけでなく静岡市清水区と菊川市の生産者からも出品され、あわせて手摘みの部に8点、機械摘み被覆の部に9点、機械摘み露地の部に22点の出品がありました。町内出品茶の審査結果は下表のとおりです。

審査終了後、鈴木審査長から「上位の出品茶は良質で、全国の品評会でも入賞するクラス。山のお茶らしい香りの良品がそろった」と全体を通した講評がありました。

審査結果一覧

結果	手摘みの部	機械摘み被覆の部	機械摘み露地の部
	出品者		
優等	ティーサークル徳山 代表 中野 利広	丹野園 丹野 浩之	仁木 富也
1等	相藤園 相藤 令治	町茶業振興協議会	相藤園 相藤 令治
2等	つちや農園 土屋 鉄郎	高畑園 高畑 裕	高畑園 高畑 裕
		川崎 好和	
3等	該当無し	該当無し	町茶業振興協議会
			川崎 好和
			川崎 壽美子



「山の茶」産地 意見交換会

品評会終了後、町内と静岡市清水区および菊川市の茶生産者、品評会審査員による意見交換会が開催された。



▲被覆について意見を述べる丹野浩之さん

この意見交換会は、品評会に出品した町内外の生産者が、産地を越えて「山の茶」のさらなる品質向上を目指すことを目的に、初めて開催されました。

まず最初に、鈴木審査長をはじめとする各審査員が、それぞれの観点から今回の品評会の出品茶について評価を述べました。

続いて、品評会の審査結果を基に、生産者が審査員に質問したり、生産者同士が意見を交わしたりしました。生産者は、審査において感じた川根本町と清水のお茶との違いや採点時に考慮した点などについて熱心に質問をしました。またそれぞれの生産者は、意見交換会が始まる前に確認したお互いの出品茶の香りや滋味に対する所感を基に、被覆の期間や、肥料の種類などの技術的な意見を交わしました。

▼採点結果について説明する鈴木審査長

